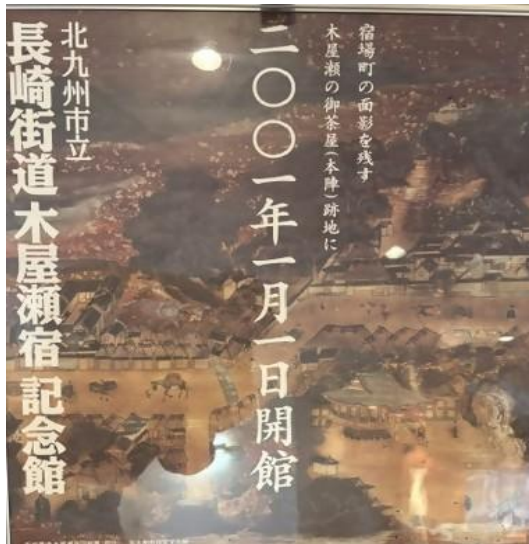




長崎街道木屋瀬宿記念館開館25周年記念事業 ～ 長崎街道と遠賀川が結んだ“盆踊り”浪漫 ～ のお知らせ



長崎街道木屋瀬宿記念館開館は、今年で開館25周年を迎えました。これを記念し、地域の伝統芸能であり無形文化財である「盆踊り」をテーマとした4つの記念イベントを開催します。

長崎街道の宿場町、そして遠賀川の水運の拠点として栄えた木屋瀬周辺では、江戸時代から明治時代にかけて人や文化が活発に往来し、その中で地方の歌舞伎役者らの影響を受けた独自の盆踊り文化が発展しました。そこで磨かれた舞踊・お囃子・唄の技は、地域が誇るべき「大衆娯楽」として、今なお大切に受け継がれています。

本事業を通じ、長年続いてきた伝統芸能の魅力を広く発信してまいります。ぜひご取材くださいますようお願いいたします。

記

* 開催イベント

(1) 第102回企画展「遠賀川沿い 伝承の盆踊り一道具・衣装と楽器で語る一」 **別紙1**
令和8年10月24日(土)～12月20日(日) ※ 10月中旬詳細発表予定

(2) 筑前こやのせ伝統芸能ワークショップ **別紙2**
① 「木屋瀬の伝統芸能、宿場踊りを踊ってみよう！」 令和8年 9月27日(日)
② 「踊りに欠かせない和楽器、三味線にふれてみよう！」 令和8年11月14日(土)

(3) 歴史講演会「遠賀川流域の盆踊り」 **別紙3**
令和8年12月13日(日)

【問合せ先】

長崎街道木屋瀬宿記念館 担当：中西、有馬
電話：093-619-1149 / FAX:093-617-4949

第102回企画展 遠賀川沿い 伝承の盆踊り一道具・衣装と楽器で語る一

- 1 会 期 令和8年10月24日(土)～12月20日(日)【50日間】
- 2 会 場 みちの郷土史料館 企画展示室
- 3 入 館 料 無料 但し、入館料が必要
(一般240円、高校生120円、中学生以下60円)
- 4 協 力 筑前木屋瀬宿場踊り保存会、野面盆踊り保存会(北九州市)
植木三申踊保存会(直方市)、下大隈里踊り保存会(中間市)、他

5 概 要

遠賀川流域で伝承活動が盛んな4つの盆踊りについて、各々の特徴や仕組みを紹介します。木屋瀬以外の踊りを含めた企画展は、記念館で初めてです。

- ① 木屋瀬盆踊(通称「宿場踊」) 福岡県指定無形民俗文化財
- ② 野面の盆踊 北九州市指定無形民俗文化財
- ③ 植木三申踊 (直方市) 福岡県指定無形民俗文化財
- ④ 下大隈の里踊り (中間市)

(1) パネル展示

- ・踊りの曲目や所作
- ・踊り手・囃し手・唄い手それぞれの役割や踊りのしくみ
- ・現在の伝承活動状況 等

(2) 現物展示(一部、写真パネルを含む)

- ・衣装: 踊手・囃し手・唄い手
- ・楽器: 三味線・太鼓など
- ・小道具: 手ぬぐい、山笠、持ち傘など 等

(3) 映像放映

(4) 踊りの実演

11月1日(日)の筑前木屋瀬宿場まつり(第32回)に出演予定。

こやのせ ぼんおどり しゅくばおどり
① 木屋瀬盆踊 (通称「宿場踊」) : 福岡県指定無形民俗文化財

江戸の享保年間(1716~1736年)に、木屋瀬の人達が“伊勢音頭”を持ち帰って流行させたのが始まりです。伊勢音頭は全国の盆踊りの源流とも言われます。

宿場町として、数多くの旅人や大名の宿泊もあったことから、

- ① 衣装が道中姿である。
- ② 大名行列で、槍や荷物を持ちながら独特のパフォーマンスで歩くお供のしぐさを取り入れ、大きく膝を上げたり、上半身のひねりや見え切りなど、全体的に所作が大きい。
- ③ 浴衣などの丈が長い和服では踊りにくいため、丈が短い旅装束を着用して踊る。などの特徴があり、男性的な盆踊りとして全国的にも珍しいです。



のぶ
② 野面の盆踊 : 北九州市指定無形民俗文化財

1800年代初め頃、遠賀川沿いの地方歌舞伎役者の影響を受けた中間市周辺の伝承盆踊から習得したと伝えられています。

踊りは大傘を立て、その下に三味線、太鼓、歌い手が位置し、それを中心に輪踊りします。所作が細かく技巧的ながら、太鼓の音を中心に非常に力強いリズムで、お囃子の掛け声も大きく、踊り手を鼓舞するような活気があります。

一般的に浴衣姿が多いですが、地域伝統のかすりや作業着の名残を感じさせる素朴な着こなしも見られます。



うえき み さるおどり
③ 植木三申踊 (直方市) : 福岡県指定無形民俗文化財

直方市植木は木屋瀬の対岸にあり、遠賀川の重要な川港として、近隣との交流が盛んでした。植木には諸国を巡業する地方歌舞伎の一団(植木役者)が帰郷した際に、毎年正月の申の日に奉納した芝居(三申踊り)があり、これをベースに盆踊りが広まりました。

元々、念仏踊りの流れを汲み、1000年の歴史があると言われており、手拭いで顔を隠し、男性は野郎姿、女性は深い編笠姿で踊るといった特徴があります。



しもおおくま
④ 下大隈の里踊り (中間市)

中間市下大隈地区で、1800年代初頭以前から続く伝統芸能です。かつて五平太船で石炭を運んでいた人々が、寄港先の芦屋で“芦屋歌舞伎”の役者から学んだ長唄を地元へ持ち帰ったことが始まりとされています。

現在の演目は、江戸末期から伝わる3つの演目(汐くみ、思案橋、川舟)と、第2次大戦後に若者から自然発生した演目(下大隈ふるさと音頭)で構成され、港町の華やかな上方文化と地元の息吹が融合した歴史ある踊りとなっています。



筑前こやのせ伝統芸能ワークショップ

踊りに欠かせない“踊手”と“囃手”について、体験や実技を伴うワークショップを開催し、木屋瀬の宿場踊の魅力を体験します

I 木屋瀬の伝統芸能、宿場踊りを踊ってみよう！

宿場踊は、独特の節回しで手足の動きが大きいものの、ゆったりとしたリズムで誰でも簡単に覚えられ、あらゆる世代の健康づくりにも最適です。

本ワークショップの参加者は、11月1日（日）の「第32回筑前木屋瀬宿場まつり」に出演予定です。

- | | |
|-----------|--|
| (1) 日 時 | 令和8年9月27日（日）10時～12時 |
| (2) 会 場 | こやのせ座 |
| (3) 協力・講師 | 筑前木屋瀬宿場踊り保存会 |
| (4) 参加費 | 無料 |
| (5) 予定人数 | 20人（小学生以上を対象） |
| (6) 内 容 | ① 宿場踊りの説明
② 踊りの所作・動作の実演
③ みんなで踊ってみよう！
④ 11月1日（日）の筑前木屋瀬宿場まつりでの出演案内 |

II 踊りに欠かせない和楽器、三味線にふれてみよう！

生演奏を聴いたり、実物の楽器を使って音を鳴らす体験をすることで、踊りをリードする重要な和楽器・三味線について親しみをもって頂き、今後のお囃子の聞き方や個人の趣味・特技へのきっかけづくりの場とします。

- | | |
|-----------|--|
| (1) 日 時 | 令和8年11月14日（土）10時～12時 |
| (2) 会 場 | こやのせ座 |
| (3) 協力・講師 | 筑前木屋瀬宿場踊り保存会、他 |
| (4) 参加費 | 無料 |
| (5) 予定人数 | 20人（小学生以上を対象） |
| (6) 内 容 | ① 津軽三味線の生演奏
② 三味線の歴史やしぐみについての講話
③ 三味線での演奏体験
④ もっと三味線に親しむ方法を学ぶ |

歴史講演会「遠賀川流域の盆踊り」

遠賀川沿いの盆踊りの歴史や地域社会の発展に与えた影響などをわかりやすく解説し、盆踊りの魅力の再認識や芸能伝承の意義について深掘りするため、地元の専門家による講演会を開催します。

- | | | |
|---|------|----------------------|
| 1 | 日 時 | 令和8年12月13日（日）10時～12時 |
| 2 | 会 場 | こやのせ座 |
| 3 | 講 師 | 長谷川清之（福岡県文化財保護指導委員） |
| 4 | 参加費 | 無料 |
| 5 | 予定人数 | 50人 |